

N-ONE のデザイン

Styling Design of New N-ONE

金 山 慎一郎*

Shinichiro KANAYAMA

戸 川 昌 幸*

Masayuki TOGAWA

石 川 孝 夫*

Takao ISHIKAWA

齋 藤 康 子*

Yasuko SAITO

要 旨

N-ONE はグランドコンセプトに「One's MINI TOURER」を掲げ、大人4人が快適にロングドライブできる走行性能とパッケージをもとに、高い質感や親しみやすいデザインを追求し、軽自動車の規格内でスモールカーを越える、日本の新しいベーシックカーとして開発した。

デザインコンセプトは「タイムレス N デザイン」とし、新しいベーシックカーとして長く愛着を持って使っていたため、「シンプルさ」と軽自動車のクラスを感じさせない「高い質感」を実現した。

エクステリアは「親しみ」「安心」「使いやすさ」、インテリアは「爽快感」「充実感」「使いやすさ」をスタイリングテーマとした。また、それらの特徴をより引き立たせるカラーおよびファブリックを開発した。

ABSTRACT

Following the grand concept of “One's MINI TOURER,” the N-ONE was developed as a new basic Japanese car with cruising performance and a package in which four adults could take a long drive in comfort, and that pursued high quality and friendly design to surpass small cars while staying within the kei car specification.

The design concept was expressed as “timeless N design,” and the N-ONE is intended to be used affectionately for many years as a new basic car. To that end, the design effort achieved “simplicity” along with a “high-quality sense” that does not feel like the kei car class.

The styling themes of the exterior are “friendly,” “comfortable,” and “usable,” while those of the interior are “exhilarating,” “enriching,” and “usable.” The colors and fabric were also developed to bring out these characteristics.

1. はじめに

Honda は 1963 年に軽自動車で四輪市場に参入して以来、他社に無いユニークな商品を提案してきた。その中で N360 はモダンなデザインと他車を圧倒する走り、長距離移動でも快適な室内スペース、高い安全性を兼ね備えた Honda 初の軽乗用車として誕生した。日本のモータリゼーションの高まりとともに世の中のマイカーブームをけん引し、多くのユーザに「はじめて車がある生活」をもたらした。N-ONE はそのような N360 の志を受け継いで開発した。

*四輪 R&D センター

N シリーズ第 3 弾として開発するに当たり、子育てファミリー層に向けた N BOX とは異なり、若者や子離れ層をターゲットと定めた。そこでターゲットユーザをリサーチしたところ、環境意識の高まりに伴い、良いものを長く使いたいというニーズがあった。特に子離れ層において、セダンやスモールカーから軽自動車へのダウンサイズが増えてきていることが判明した。また、買い物や通勤などの近距離の移動がメインであった軽自動車の移動範囲が、ユーザの行動範囲の多様化に伴って広がっていることもわかった。

そこで、ダウンサイズを納得させる高い質感の「タイム

レスNデザイン」, 長距離移動を可能にする走りの良さと快適な室内スペースを持つ「快適ツアラ性能」, 高い安全性を実現する「安全ドライブ性能」の三つのキーワードを見出し, お客様一人ひとりにとってベストなマイカーとなるべく「One's MINI TOURER」の開発をおこなった (Fig. 1).

また, 上級車の価値を求めるお客様にも満足いただけるように, さらに上質なデザインや走りを提供するプレミアム仕様を設けた.

2. デザインコンセプト

スモールカーを越える新しいベーシックカーを軽自動車で実現するため, N-ONE のデザインコンセプトは「タイムレスNデザイン」と定めた.

時代を超えて愛着と誇りを持って長く使えるように, 親しみとわかりやすさ, 飽きの来ないシンプルさと, ファーストカーとして乗ってもらうため軽自動車のクラスを感じさせない質の高いデザインを目指した (Fig. 2).



Fig. 1 Grand concept



Fig. 2 Overview of N-ONE

また, 気軽に自分好みに印象を変えることができるよう, 開発当初からカスタマイズ性を考慮したデザインをねらった.

プレミアム仕様はコンセプトを「モダンプレミアム」と定め, ノーマルに対してさらに上質で高揚感あふれるデザインを目指した.

3. パッケージレイアウト

パッケージで「One's MINI TOURER」を達成するため, 高速, 長距離走行を考慮したフォルムと軽自動車規格サイズでスモールカー以上のゆとりある空間を両立しながら, 日常の使い勝手も考慮した「Mini ツアラパッケージ」の創造を目指した.

3.1. 台形フォルムと快適空間の両立

低重心で走りの良さを体現したフォルムを実現するため, サイドビューでテールゲートの傾斜を強めて, 高速移動でも安定感のある躍動的な台形フォルムとした. またNシリーズの革新プラットフォームの優位性を活かすことで, クラス最大の有効室内長を達成し, 大人4人が快適に過ごせる空間と十分な荷室を高いバランスで結実させた. この結果, リヤ席でゆったり足が組める, スモールカー以上の前後空間と大人4人分の1泊旅行程度の荷物が積める荷室を同時に実現した (Fig. 3).

3.2. 日常の使い勝手

日常の使い勝手向上をねらい, 荷室廻りはNシリーズの革新プラットフォームの採用で, N BOX と同様のワンモーションダイブダウンやチップアップ機構といった多彩なアレンジをおこなえる (5:5 分割) リヤシートを取り入れた.

ダイブダウン時には1560 mmのクラス最大の荷室長を実現し, 荷室はマウンテンバイクの前タイヤを外せば2台収納できる広さとした (Fig. 4). トランクの床下には容量39 Lの収納スペースを設けて, カーメンテナンス用品や汚れ物など人目に触れさせたくないものの収納に対応した. テールゲート開口の地上高をクラスで最も低い575 mmとし, 荷室面とフラットにして重い荷物の積み降ろしを容易にした. 取り回しの観点では, Aピラーを後方に引くこと

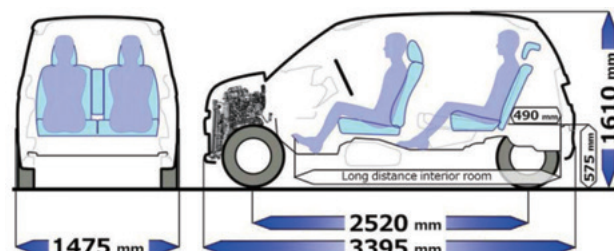


Fig. 3 Package layout

で前方のワイドな視野角を実現し、見晴らしの良さとともにコーナにおける対向車線の良好な視認性を実現した。また、フロントウインドウからサイドウインドウにかけて水平なベルトラインとすることで、後退時でも取り回しの良い視界とした (Fig. 5)。

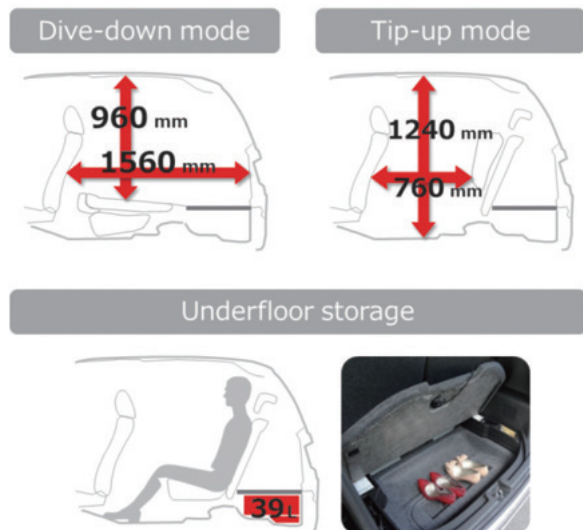


Fig. 4 Utility of rear seat and trunk

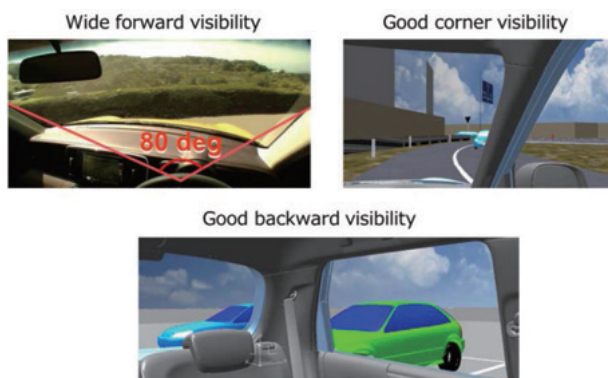


Fig. 5 Good visibility

4. エクステリアデザイン

4.1. エクステリアデザインの考え方

エクステリアデザインは、N360 直系の新しいのりものとして、人に身近で、長く愛着を持って使っていただけるシンプルさとハイクオリティを追求したデザインをおこなった。その中で親しみと安心、使いやすさの三つをキーワードにデザインを進めた (Fig. 6)。

「親しみ」は、子供でも描けるようなシンプルで要素の少ないクルマらしいたたずまいのシルエットと、愛嬌のある丸目のヘッドライトで表現した。

「安心」は、肉厚で強いフロントマスクとサイドボデー、安定感のある台形フォルムによって表現した。

「使いやすさ」は、パノラミックなカンチレバーウインド

ウグラフィックを用いて視界の良さを確保し、ヘッドライト上部を盛り上げてエンジンフードの先端を視認できるようにすることで、取り回しの良さを実現した。

フロントビューでは、短いながらしっかりとした肉厚のフロントマスクからフェンダを張り出させ、ダイナミックさと安心感を表現した。また、ヘッドライトをグリルの中に内包させてワイド感を強調し、強さとダイナミックさを表現した。ライセンスプレートはセンタ置きとし、シンメトリで均整の取れた表情を表現した。

サイドビューでは、要素の少ないシンプルさを持たせながら、テールゲートを適度に傾斜させたり、ルーフを前傾させたりすることで躍動感を表現するとともに、肉厚ボデーから四隅にフェンダを張り出させることで、安定感のある台形フォルムを実現した。また、シャープなキャララインとその間をつなぐ抑揚のある面で、軽自動車規格の車幅のなかで立体感を表現し、上質さを演出した。

リヤビューでは、リヤフェンダを張りださせた台形フォルムで安定感を強調した。リヤコンビネーションランプは四角形モチーフとし、シンプルで親しみある形を表現した (Fig. 7)。



Fig. 6 Exterior design concept



Fig. 7 Exterior rendering

4.2. 灯体デザインの考え方

ヘッドライトは丸い外形内に筒状のプロジェクタユニットを配置した。それは顔でいうところの瞳を表現し、元気で若々しい表情を演出している。ポジションランプは環状に発光する導光体を用いて、夜でも N-ONE と認識できるアイコン的な発光を実現した。HID 仕様はプロジェクタの漏光を利用してプロジェクタ外周を発光させることで、コストアップを抑えながら高い価値観を実現した。

リヤコンビネーションランプは親しみのある四角の外形とし、それを強調するようにテールランプとストップランプを導光体を用いて四角く発光させ、フロント同様のアイコン的な発光を実現した (Fig. 8)。

4.3. グリルデザインの考え方

グリルデザインは、N 360 を思わせる大面積でツヤがある黒の外形内にヘッドライトを内包させることで、上質さとワイド感を表現した。また、凹凸の少ない平坦な大面積のグリルとすることで、ステッカによる手軽でありながら効果的な加飾が可能となり、お客様のさまざまなニーズにあったカスタマイズを可能とした (Fig. 9)。

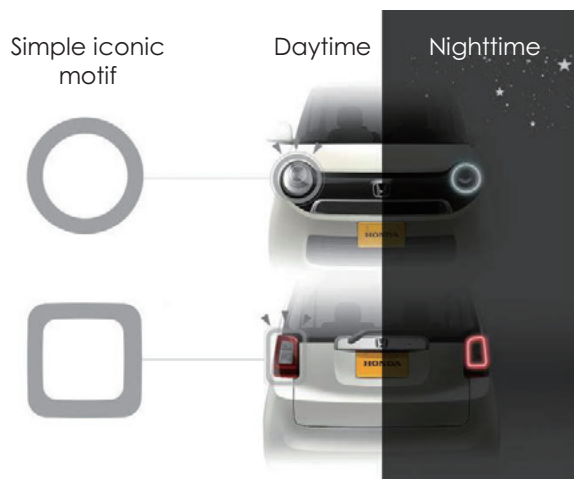


Fig. 8 Lighting image



Fig. 9 Grille design

4.4. プレミアム仕様のエクステリアデザイン

プレミアム仕様のエクステリアデザインは、軽自動車のクラスを超える上質さと高揚感をテーマとした。フロントは、シャープでワイド感のあるバンパとメッキをあしらった大開口グリルで、走りの高揚感と上質感を両立した。サイドからリヤにかけては、ドア下部とリヤバンパにメッキモールを設けて上質感を高めつつ、スタイリッシュなデザインと空力性能を両立したテールゲートスポイラで走りの高揚感を表現した。また、大径 15 インチアルミホイールは走りの高揚感を強調したスポーティなデザインとした (Fig. 10)。



Fig. 10 Exterior design of premium grade

5. インテリアデザイン

5.1. インテリアデザインの考え方

インテリアデザインは長く愛着を持って使っていただける、シンプルでわかりやすいモチーフと細部への丁寧な造り込みによる、爽快さと上質感を感じられるインテリアとした。その中で、爽快感と充実感、使いやすさの三つをキーワードにデザインを進めた (Fig. 11)。

「爽快感」はシンプルな構成によるわかりやすいモチーフで室内全体を造形し、居心地のよいすっきりとした空間とすることで表現した。

「充実感」は軽自動車のクラスを感じさせない高い質感を目指した、抑揚を持たせた立体感のあるフォルムで手の込んだ感じを表現した。

「使いやすさ」はフロント席を中心とした豊富なユーティリティと快適なオーディオで実現した。

インストルメントパネルは運転席と助手席の境界を感じ

させない、センタの張り出しを抑えた横基調のモチーフとした。さらに奥行きを与えることで、広がりを感じられる造形とし、爽快感を演出している (Fig. 12)。

乗員の目につきやすいインストルメントパネルアップには、左右に伸びた大型の加飾を施し、質感の向上を図った。またこの加飾を乗員側に傾斜させることで包まれ感を創出し、高速走行での安心感も高めている。

インストルメントパネルとドアは2トーンの配色を施し、視覚的に手の込んだ感じを表現した。

広がりを感じさせるため奥行きを与えられたインストルメントパネルアップを利用し、ドライバ、パッセンジャの両方からアクセスできる使い勝手の良いワイドなトレイを設けた。またロア廻りはドライバ側、パッセンジャ側、センタ側の3か所に出し入れの便利なオープントレイを設け、横基調の強調や爽快感の演出もおこなっている。

シートは大らかでクリーンなモチーフとしながら、立体感のあるフォルムで上質感を表現した。また人を包み込むようなホールド性を持たせることで、長距離移動でも快適で疲れにくい形状を成立させた (Fig. 13)。

オーディオは表示系と操作系を分け、表示系は視線移動の少ない上方奥側に配置することで、より見やすくした。

操作系はより乗員に近い位置に配置し、より使いやすくしている (Fig. 14)。

5.2. プレミアム仕様のインテリアデザイン

プレミアム仕様のインテリアデザインは軽自動車のクラスを超える上質さと落ち着き、高揚感をテーマとした。インテリアカラーや加飾のパターン、ファブリックを専用とし、メータは精緻感のあるグラフィックと、センタロアトレイと合わせたバイオレットカラーの照明を用いてインテリア全体をコーディネートした (Fig. 15)。



Fig. 13 Seat design



Fig. 11 Interior design concept



Fig. 14 Audio design



Fig. 12 Interior rendering



Fig. 15 Interior design of premium grade

6. カラーおよびファブリックデザイン

6.1. エクステリアカラー

エクステリアカラーは愛着を持って長く使っていただけるように、自分好みの色を楽しんで選べるカラフルで豊富なラインアップ構成とした。ノーマル、プレミアム仕様あわせて11色用意し、定番のベーシックカラーからカジュアルで華やかなファンカラー、上質で大人の雰囲気漂うプレミアムカラーを設定することで、お客様に自分好みの色を選んでいただくことが可能のように配慮した (Fig. 16)。

N BOX +から展開している2トーンカラーも5パターン設定し、N-ONEの個性をより魅力的に引き立てている (Fig. 17)。



Fig. 16 Exterior color line-up



Fig. 17 Two-tone roof line-up

ノーマル仕様の新色であるイノセントブルーメタリックは空気や水の層が重なってできたピュアなブルーをイメージし、世代や時代を超えて普遍的に親しまれる色を目指した。色相をやや黄味に振りながらソリッドライクな色とすることで、年配の方には懐かしく、若者には印象的で新鮮な色味をねらった。

プレミアム仕様の新色であるプレミアムブルームーンパールは日暮れ時の落ち着いた空の色をイメージし、上質で都会的な色を目指した (Fig. 18)。

6.2. インテリアカラー

ノーマル仕様のインテリアカラーはドアを開けた瞬間に、ほっと落ち着けるような、長く付き合える雰囲気を感じてもらいたいと考え、彩度を抑えた明るいページュを基調にして、全体的にすっきりと親しみのある印象をもたせた。インストルメントパネル、ドアライニングにはダークブラウンを取り入れ、コントラストを付けることで充実感や上質さを感じさせる2トーン表現とした。また室内を黒で統一することで引き締まった精悍さを感じさせるブラック内装を設定し、より幅広いお客様のニーズに答えるようなカラーバリエーションとした。

シートファブリックは細かな千鳥格子柄を採用し、時代と世代、性別を問わず長く愛されるデザインとした (Fig. 19)。

インストルメントパネルアッパの加飾は質感の向上をねらって艶やかな塗装処理とした。この加飾がインテリア全体のアクセントとなり、軽自動車のクラスを感じさせない質感の高いインテリアを実現した (Fig. 20)。

プレミアム仕様のインテリアカラーはブラックを基調に深みのあるレッドのバーガンディを合わせた2トーンカラーとし、落ち着きとモダンさを演出した。

インストルメントパネルアッパ、ドアライニングの加飾は黒木目調のパターンを施して上質さを演出した。

シートファブリックはキルティング調のエンボスを施し立体感を出すことで上質さを演出した。またドアライニングにも同様のファブリックを張り込み充実感を高めた (Fig. 21)。



Fig. 18 New colors

7. 新しい訴求への取り組み

今回初めての試みとして、より多くのお客様に N-ONE の魅力をわかりやすく伝えるために、デザイン解説書ともいえるデザインポイントブックを作成した (Fig. 22)。

これは専門的にデザインを語るような難しいものではなく、子供や車に興味の無い方でも理解できるように文章を極力減らし、ビジュアル中心の絵本仕立てとした。カタログでは伝えきれない作り手の思いや、Honda のものづくりへの思いも伝え、このクルマへのさらなる愛着をお客様に感じて頂きたく作成した。

内容は、N-ONE の生い立ちから始まり、「かたち、きもちいい、あんしん、いいもの、たのしい」の五つの項目で構成し、難しいと思われがちな造形や安全性について、わか



Fig. 19 Interior color variations



Fig. 20 Instrument panel plating



Fig. 21 Premium interior color



Fig. 22 N-ONE design point book

りやすく解説した。

はじめに、N360 誕生の背景や社会への影響などを紹介し、「かたち」は、エクステリアやインテリアのデザインについての、一度見たら忘れられないような印象に残るデザインの解説書とし、「きもちいい」は、空間の広さや視界の良さなどのパッケージングの観点と走行性能に関する内容とした。

「あんしん」は、取り回しの良さやパッシブセーフティ機能などの安全性能に関する内容とし、「いいもの」は、丹念につくり込まれた造形や質感の高い表面仕上げを他のページとは趣を変えて表現した。

最後に「たのしい」は、エクステリアカラーの説明と豊富なカラーラインナップによる選ぶ楽しさ、カスタマイズ性や多彩なユーティリティによる使うたのしさを表現した。

以上の内容を統一感を持たせながら、見る人を飽きさせないように多彩な写真やイラストを用いてユーモラスにまとめた。

8. まとめ

N シリーズは第1弾のN BOX で軽自動車を超えるミニバン並みの広さを、第2弾のN BOX +では軽自動車には無かった使い勝手を、そして第3弾となるN-ONE は、スモールカーを越える「日本の新しいベーシックカー」として、お客様の期待を超えるN シリーズに相応しい一台となった。

N-ONE は「タイムレスN デザイン」をデザインコンセプトに開発し、時代変化や従来のヒエラルキーにとらわれず、愛着を持って長く使っていただけるデザインを実現することができた。

以上のように開発されたN-ONE が、単なる「モノ」としてのクルマでなく、家族の一員のように愛着を持って長くお付き合いいただき、思い出の詰まった「あなただけの」1台になることを切に願ってやまない。

■ 著 者 ■



金山 慎一郎



石川 孝夫



戸川 昌幸



齋藤 康子